

湖東中学校3ヶ年計画 <28年度学校評価>

学校教育目標 「夢の実現へ向け 見通しを持って、今を充実して生きる」生徒の育成
 学校運営の重点
 *各分掌で重点項目について評価(ABCD)<教職員の自己分析>

- 1 PDCAサイクルの学校運営
- 2 保護者、地域との具体的連携(18歳の巣立ちの共有)
- 3 教職員の指導力向上(顔として、組織として)～生き方を考える学習活動の実践を通して～

教育理念

人は自分のためだけに
 生きるのではない
 世のため人のためになる

ふるさとを思い
 日本の心を
 大切にする人

別紙5

2017年2月24日

実態	ミッション	目指す姿
・素直で人つなしい生徒が多い。 ・受け身の姿勢の生徒が多く、自ら考え行動できる生徒が少ない。	◎夢や希望を持ち、その実現に向け、日々を充実して生きる生徒	
・相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを伝えたりするのが苦手な生徒が多い。	・地域を思い、地域の行事等に積極的に参加する生徒	
・全校集会や表彰等で返事の声が少ない	・常に場に応じた身なりができる生徒	
・夢や目標を持っている生徒が全票、概に比べ少ない	・地域や学校で適切に挨拶ができる生徒	
・学力が低く、不適応生徒が多い	・常に熱心掃除が出来る生徒	
・個々人は、教育活動に、まじめに一生懸命に取り組む教職員が多いが、組織として、ビジョンや目指す方向性が明確でない	・自分らの目標を持ち日々学習に努力する生徒	
・生徒や保護者、地域に対し、マイナスイメージがある。	・自分らの3点固定が出来る生徒	
・仕事に多忙感を感じたり、スケジュール管理が苦手な者が多い。	◎プロフェッショナルな教師集団	
・問題行動等への対応が、見通しがなく組織的に行われていない。	・各教科の授業において学習規律や基礎基本を定着させ、生徒主体の考える授業実践を行っている	
・教科会が機能しておらず、授業づくりが個人任せになっている。	・生徒指導に於いて集団指導はもとより個人指導においても、生徒・保護者に適切に対応できる	
・PTA役員は、学校教育を理解し、非常に協力である。役員以外のPTA会員の意識が低く、PTA研修会や参観日での学年会・学級会等の出席率が低い。	・校務分掌を学校運営の方針に従い、見直しを持ち企画立案、実践が出来る	
・池ノ端応援団、湖東グリーンゾーン、同窓会等、学校に対する理解があり、協力的な地域資源があるが、十分活用できていない。	◎学校運営と連動したPTA活動	
・県教育センター、鳥取大学、3つの高等学校、2つの支援学校、4つの小学校があり、様々な連携しているが、理念の共有がなく、体系化されていない。	・学校運営の方針を理解し協力的なPTA活動	
	◎18歳の巣立ちを目指した、具体的連携	
	○小中高大学との縦の連携	
	○保護者、地域横の連携	

重点項目	28年度				肯定評価コメント	課題コメント	学校評議員・学校関係者評価委員
	学	自	生	総合			
1地域に貢献する活動					○4ヶ年学校すべてにおいて、1年生が地区駅駅長(補助)として参加することを目指した。○キラッと大作戦のピズを作成したことで、活動しながら地域に貢献することもできた。○継続的な活動となり、地域の方との交流の機会などで今後も継続したい。○キラッと大作戦は、地域に湖東中が確立している姿を見せられることで、地域との信頼につながる。○今年度も湖東グリーンゾーン湖山西支部の皆さんと一緒に湖山池北岸清掃に参加した。○民生委員や保護司の皆さんが月1回校門にたれる日「湖東中学校あいさつデー」で、執行部だけでなく、全校生徒に呼びかけて実施できた。○生活ノートの形式が実り、適切な目標設定は定着しつつあるが、目標に対しての振り返りの時間の確保が不十分であった。○担任として活用することができた。○生活ノートの目標はしっかり記入できている生徒が多く、定着してきている。	●キラッと大作戦は、例年通りの場所、活動ではなく、+αのことをしていた。 ●グリーンゾーン挨拶運動への参加は、一部の生徒の参加ではなく、参加生徒の輪を広げてきた。●湖東グリーンゾーン湖山西支部や東支部としても清掃活動企画してもらいたい既存のものを活用して。 ●日直司会カードに、ふり返り時間の設定項目を入れる。学級の役割分担の中に目標設定係を位置づけ、生徒の主体的な目標設定を促す。 ●学校基本アンケートの「みそあじ」に関する肯定的評価が高いので、A評価のみに着目した方がよいのではないか。 ●活用できていない組に対する手立てが必要。 ●車の自慢の欄があり、目標を定めてやってくれたが、振り返る欄があまりない。 ●なかなか生徒が主体となれない活動が多く、教員の指導が欠かれない。 ●生徒会執行部はすくく頑張っているが、何となくその確率に全校で応えられるような雰囲気はできていない。 ●「みそあじ」に対する生徒の認識は高まってきているように思われるが、さらなる生徒自らの力を伸ばしたい。 ●3点固定の結果と生徒の生活や学習の様子がよくあてはまっていた。担任は結果を活用すべきである。 ●今年度の結果を勘案して、生徒や保護者、教員にも通じていざさらには環境の改善につながるべきではないか。 ●家庭との連携、啓蒙が必要。	<第1回> ○基本アンケート24。普通の生徒さんは日常何人くらの先生と話しているのか? 横糸の先生、どれくらいいるのか? 潜在的な知能の数値と比べて、アンダーチーターが多い。自分の努力が報われるポジティブ体験をしてほしい。中学の生活でいかにそういう体験を増やすか。 ○校区でのアンケートでは、学習時間が少ないという原因は、メディアも一因。学校で指導もしているが、家庭での指導が大切。 ○生活習慣の2種化。ユーチューブやケーブルTVのアニメをずっと観ている生徒がいる。放任している親もいる。小さいころから習慣化してしまえば、体調を悪くしているのに生活習慣を見直さない生徒を模索している。 ○年々、メディアの問題がバージョンアップしている。危険性を子どもにも、大人にもしていく必要がある。 ○所持率は100%。最近キーボードに触る経験がない子がいる。スクロールに慣れている。はまり込みに困っている人は、少ない。しかし、生徒たちがこういう風につながって行動しているかわからない。いじめにつながることも、心配なことがある。地道に啓蒙していくしかない。持ってくるのはいじりか、校内で使用は禁止。試験中に喋ったり、指導。社会人としてのマナーを付けていく。 ○生活時間をそういうものが阻害している。今の世の中では当然の流れ。どうコントロールしていくかが大切。 ○タブレットを持たせて、自由に使わせている。学校の情報もタブレットで、はまってしまう。生活を崩して行ってしまうから、いろいろいる人とも協力して指導していくことも。持って出なければ、落ち着かない状況の子もいる。
・きらっと大作戦(各部活動)	A	A	A	A			
・グリーンゾーン挨拶運動への参加							
・敬老会への参加							
2私たちの道徳、生活ノートを活用した目標設定と振り返り	B	B	B	B	○登下校のマナーについて、学級生徒会・生徒議会を活用しながら、めざす姿を全校生徒で盛り上げていくことができた。このような過程を他の課題でも踏んでいこうとした。 ○生徒会(保護委員会)活動と連携し、生徒(保健委員)が学級で啓発活動に取り組むことができた。 ○今後ますます大切になっていく。中学校でも地域の活動に参加する意識を持たせられたい。 ○生徒の意識の中では取り組むことが定着となってきてきた。雪かきなどもすすんでできるともよい。 ○執行部だけでなく、クラス、部活動単位での参加があつてよかった。 ○GPSIS(生徒・保護者ともに3点固定)に取り組める実践があり、これを機に生活習慣を磨き上げようとする生徒が増えた。		
3生徒会を核とした自治的活動	B	B	B	B	○研究会を通して、指導案を練り上げたり、授業力を向上させたりとでも勉強になった。 ○藤永先生の題材分析のお話は、とても分かりやすく、その手法を用いて題材分析を行っている。 ○複数年度で物事を見ていくことも大切であるが、3か年の最終年として積み上げられなかったこともある。 ○道徳は学年でもよく話し合われ、お互いの力を伸ばすものとなっている。		
4自分でできる家庭生活の3点固定	B	A	B	B			
1全体授業研究会年2回(道徳、教科)十三校内研(道徳)	A	B	A	A	○研究会を通して、指導案を練り上げたり、授業力を向上させたりとでも勉強になった。 ○藤永先生の題材分析のお話は、とても分かりやすく、その手法を用いて題材分析を行っている。 ○複数年度で物事を見ていくことも大切であるが、3か年の最終年として積み上げられなかったこともある。 ○道徳は学年でもよく話し合われ、お互いの力を伸ばすものとなっている。	●学校基本アンケートの「みそあじ」に関するB評価を評価に高めるために、道徳との連携を自治活動部から積極的に提案していきたい。 ●学校基本アンケートを成果指標として活用するために、めざす生徒の姿を明確にし、質問内容の文言を検討していきたい。 ●研究会などの行事は、できるだけ12月までに終わらせていかないと次の学年の準備が遅れる。 ●各種アンケートの肯定的評価は、評価指標として大切だが、「とても・・・」の絶対的な評価にも目を向けていざさらには詳細な分析ができると思う。 ●学校基本アンケートの質問項目の修正が必要。項目によっては問いが大きすぎて答え方に困るものがある。	
・指導案作成年2回(道徳、各教科)	A	B	A	A			
2校内研修会(道徳、特別支援教育)	A	B	A	A			
3・4ステージ2サイクルの学校運営							
・自己申告書と連動した活動計画作成	A	B	B	B			
・学校基本アンケートの作成							
・校務分掌の見直し							
・3か年計画作成							
1湖東中教育フォーラムの開催	A	B	B	B	○講演内容がとても具体的にわかりやすくとてもよかった。 ○内容もよく、参加者も多かった。	●たくさんの保護者に参加してほしい。 ●今年度の演題であれば、スマイルプロジェクトともしっかり連携させてよかった。	
2KMG							
・組織改革(企画委員会、6委員会)	A	B	B	B	○昨年度に引き続き、リーダー研修やあいさつ運動、湖東中セミナーなど、小学校と連携した取り組みを継続することができた。 ○目指す生徒像を共有し、息息、自学ノートなど共通した取り組みをすることができた。	●校内分掌とのリンクが今一つ。 ●6委員会の連携の部分が不足している。 ●学力向上のため教科会を行ってほしい。 ●あいさつ運動や湖東中セミナーは湖東中から提案する取り組みであるため、小学校によって温度差が激しく、前向きに活用していただける小学校もある。●全く受け身の小学校もある。 ●自学ノートを交換し合っているが、中学校での取り組みがやや低調であることは、改善していきたい。	
・3か年計画作成							
・目指す児童生徒像の共有							
3PTAグリーンゾーン、池之端等との具体的連携	A	C	B	B	○HP等を利用してさらなる情報発信が必要である。	●最近池之端との具体的連携がなされていないように感じる。 ●HP等を利用してさらなる情報発信が必要である。 ○グループの力を合わせてやり遂げる姿が見られた。 ○学校にはありがたく思っている。地域家庭がなければならぬことを心掛ける必要がある。 ○大学でも同じようなことで悩んでいる。何かのきっかけで心の健康度が崩れることがある。色々あるが、カンフル剤として授業の最初と最後に、5分間テストはどうか。 ○校長から伝えることが明確。湖東に行かせるというような、地域を大切にしている保護者が増えて欲しい。 ○湖東で学力をつける。十分頑張れるという子を6年間育てたい。 ○小・中・高・大・教育センターがあるすごい地域。あいさつ運動に長年取り組んでいるが、学校だけでは限界がある。家庭・地域を巻き込んでアプローズしていく戦略はどうあるべきか。	
・HP学校便り等による積極的な情報発信							
4高等学校、県教育センターとの連携							
○高等学校との連携は、多くどれでも3年間積み上げてきたので内容も充実していた。	A	B	B	B			
・進路フォーラム、文化祭等交流							